

●○○ 第248回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）の認定審査活動に従事して

講師：公益財団法人日本適合性認定協会 ISO 審査員

松村 恒男 氏（消費生活アドバイザー）

日時：2024年11月16日（土）14：00 ～ 17：00

場所：日土地内幸町ビル3階 （一社）大日本水産会 大会議室

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）の ISO 審査員であり、消費生活アドバイザーの松村恒男氏による講演を拝聴しました。この講演では、適合性評価の意義や、その活動が社会全体に与える影響について深く学ぶことができ、大変貴重な時間となりました。

まず、「適合性評価」という概念自体について、多くの気づきを得ました。製品やサービスが技術的規則や要求事項に適合しているかを第三者が評価するこのプロセスは、単に企業の内部事情にとどまらず、経済の活性化や産業競争力の強化、安全で安心な社会の実現にまで影響を及ぼすものであることを知りました。特に、現在のグローバル化が進む社会において、国際基準に基づく適合性評価が必要不可欠であるという講師の指摘には強く共感しました。

講師が三菱電機勤務時代から JAB 審査員として活動し、その後も中央大学大学院教授として教育の場でもこの重要性を発信してきた経歴は、適合性評価の奥深さを体現しているようでした。また、品質、環境、食品安全マネジメントシステム認証審査といった具体的な分野でのご経験を交えた話は非常に説得力がありました。例えば、食品安全マネジメントシステムの重要性について、具体的な審査事例を交えた解説は、食品事故が社会に与える影響をリアルに感じさせるものでした。

印象的だったのは、講師が「第三者評価」の役割を特に強調していた点です。企業が自社の製品やシステムを内部で評価することはもちろん重要ですが、第三者の客観的視点が加わることで、より信頼性の高い結果を社会に提供できるという話には深く納得しました。また、適合性評価が透明性や公平性を保つための手段として、企業と社会の橋渡し役を果たしていることが実感できました。

さらに、JAB が適合性評価機関を国際基準に基づいて評価し、認定を授与するプロセスについても具体的な説明がありました。この活動を通じて、日本の企業が国際的な競争力を持つための基盤を整えられていることに感心しました。こうした活動は、日本の産業の信頼性を高めるだけでなく、世界中の消費者にも安心感を与えているのだと感じました。

講師の言葉からは、適合性評価に携わる人々の高い倫理観や責任感も強く感じ取れました。特に「安全・安心社会の実現」という使命感が、全ての活動の根底にあるという言葉には心を打たれました。私自身、講演を通じて適合性評価に対する理解を深めただけでなく、この分野に関心を持ち、さらなる知識を得たいと思うようになりました。

【所感】

今回の講演を通じて、適合性評価の重要性を再認識するとともに、その背後で活躍する方々の努力に感謝する気持ちを抱きました。この分野は、私たちの日常生活に直接的または間接的に影響を与える非常に重要な領域です。今後も、こうした活動がさらに広がり、社会に貢献していくことを期待しています。

報告者 第21期 田中 慶篤